平成 30 年度業務実績報告書

令和元年６月

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目　次

１　法人及び病院の概要・・・１
２　計画に係る実績及び自己評価
（１）　全体的な実績（主な取組、成果、課題等）の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
①　総括
②　大項目ごとの状況
（２）　小項目ごとの実績及び法人自己評価
第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
１　地域医療を支える要としての静岡病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（１）　広大な市域を支える要としての活動
（２）　救急医療
（３）　高度医療
（４）　政策医療
（５）　災害時医療
２　医療の質の向上と人材の確保・・20
（１）　総合的な診療とチーム医療の実施
（２）　先進医療機器や設備の整備
（３）　医療職の確保、知識の習得、技術の向上
（４）　臨床研修医の育成
（５）　調査・研究、治験の実施
３　医療の安全性と信頼性の向上・・28
（１）　十分な情報提供と適切な取扱い
（２）　医療安全管理等の徹底
（３）　市民への積極的な広報
４　利用しやすく快適な病院づくり・・・35

（１） 患者第一の病院づくり
（２） 患者ニーズに応じた医療・病院環境の提供
５ 市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流 · 39
（１） 市立病院としての市との連携
（２） 医療・保健・福祉・介護関係機関との連携
（３） 国内外医療関係機関との交流
第２ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
１ 働きやすい職場環境と職員のやりがいづくり · 43
（１） 働きやすい職場環境の整備
（２） 職員のやりがいと満足度の向上
２ 業務運営体制の構築 · 47
（１） 医療環境の変化に迅速・柔軟に対応できる体制の構築
（２） 市民との連携・協働による病院運営の実施
（３） 外部評価等の活用
（４） 事務部門の強化
（５） 法令の遵守等
第３ 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
１ 健全経営の維持 · 56
（１） 安定的な経営の維持
（２） 収入の確保、費用の節減
（３） 計画的な投資の実施
第４ その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置
１ 地球環境に配慮した病院運営 · 64
第５ 予算、収支計画及び資金計画 · 66
第６ その他市の規則で定める業務運営に関する事項 · 66
１ 施設及び整備に関する計画

1 法人及び病院の概要

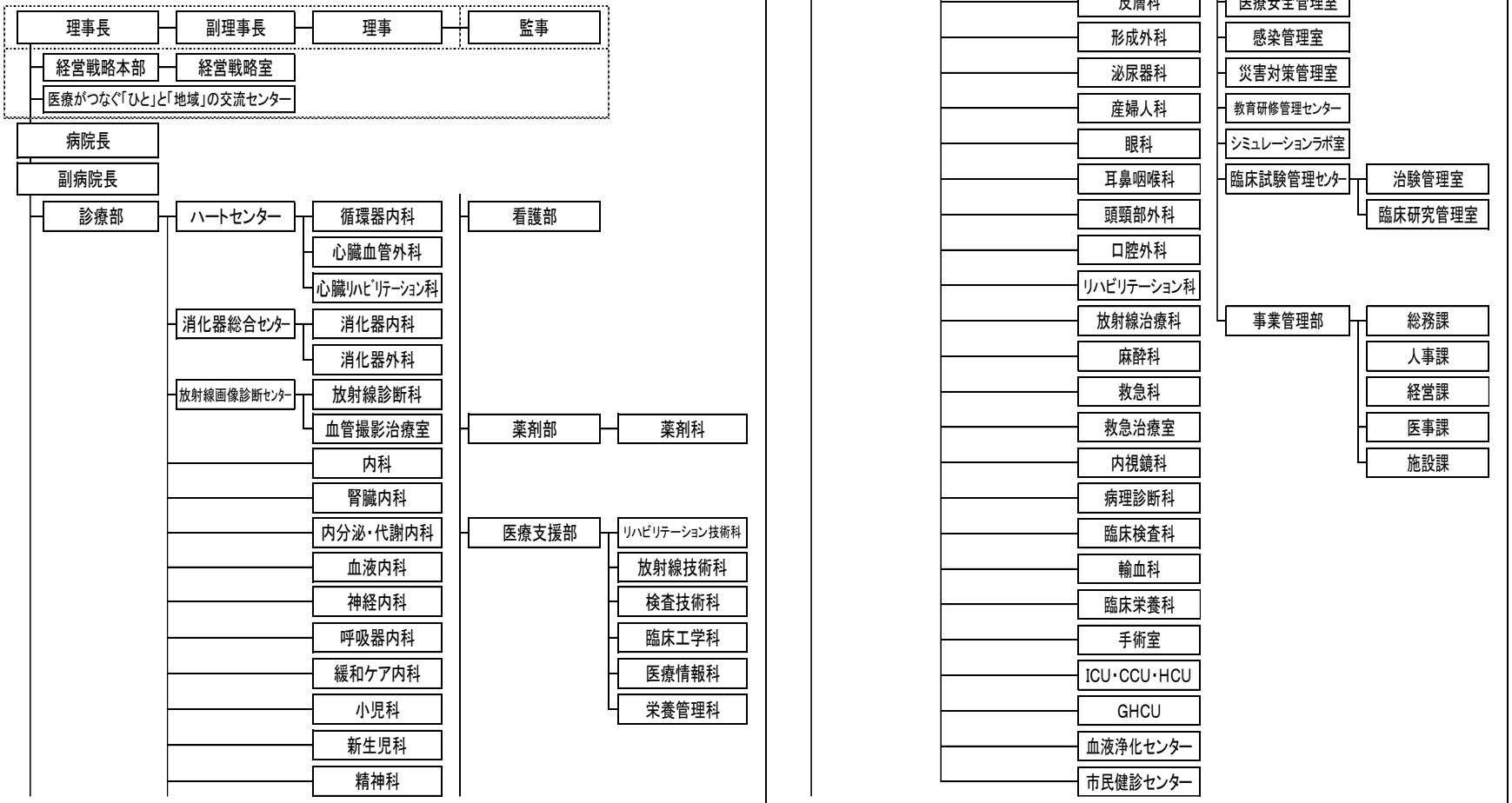
1　現況（平成 31 年３月 31 日現在）

（１）法人名　　地方独立行政法人静岡市立静岡病院

（２）所在地　　静岡市葵区追手町 10 番 93 号

（３）設立年月日　　平成 28 年４月１日

（４）組織図



（5）役員の状況　（平成 31 年３月 31 日時点）

役職	氏名	備考
理事長	宮下　　正	病院長を兼務
副理事長	上松　憲之	
理事	居城　舜子	
理事	江﨑　和明	
理事	田中　孝将	
理事	千原　幸司	
理事	小野寺知哉	副病院長を兼務
理事	脇　　昌子	副病院長を兼務
理事	山﨑　文郎	副病院長を兼務
監事	興津　哲雄	弁護士
監事	山田　博久	公認会計士

（6）設置・運営する病院　（平成 31 年３月 31 日時点）

病院名	静岡市立静岡病院
所在地	静岡市葵区追手町 10 番 93 号
理念	開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。

主な役割及び機能	地域医療支援病院 臨床研修病院 救急告示病院 第一種感染症指定医療機関 災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院 エイズ中核拠点病院 地域肝疾患診療連携拠点病院 地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定病院
診療科目	内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科及び病理診断科 （計 31 科目）
許　可 病床数	506 床（感染症病床「一類２床、二類４床」を含む）

沿革	明治２年　追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設 明治９年　公立静岡病院として屋形町で開院（県立） 明治 15 年 県立から郡立（有度・安倍郡）に移管 明治 22 年 静岡市制施行に伴い静岡市に移管 明治 38 年 市立静岡病院と改称 昭和 20 年 戦災により焼失 昭和 21 年 隣保館（巴町５９番地）を改築、仮病院とする 昭和 26 年 追手町１０番９３号（現在地）に移転 昭和 49 年 本館（旧東館）竣工 昭和 60 年 病院建設工事施工（４か年継続事業） 昭和 62 年 第１期西館高層棟完成 平成元年　第２期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成 平成２年　オープンシステム（開放型病院）実施 平成３年　心電図伝送システム導入 平成７年　オーダリングシステム稼働 平成 15 年 新静岡市にて開設 平成 15 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定審査に合格 平成 15 年 地域医療支援室を設置 平成 18 年 地域医療支援病院の承認を取得 平成 19 年 地域がん診療連携拠点病院の指定 平成 19 年 肝疾患診療連携拠点病院の指定 平成 20 年 東館竣工 平成 20 年 電子カルテシステム稼働

沿革	平成 20 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.5) 平成 21 年 ＤＰＣ対象病院 平成 22 年 病院専用駐車場竣工 平成 25 年 ハイブリット手術室稼働 平成 25 年 内視鏡下手術用ロボット（ダ・ヴィンチ）稼働 平成 25 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.1.0) 平成 25 年 災害拠点病院の指定 平成 26 年 経カテーテル大動脈弁置換術開始 平成 28 年 地方独立行政法人としてスタート 平成 29 年 PET/CT 稼動 平成 30 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.2.0)

（７）職員数　850 名（平成３１年３月３１日現在）

（内訳）医師　150 名

看護師　490 名

医療技術員　147 名（うち派遣職員２名）

事務職　63 名（うち派遣職員 21 名）

２　静岡市立静岡病院の基本的な目標等 中期目標の前文 静岡市立静岡病院の歴史は、明治２年開設の藩立病院から始まり、以来、約 150 年に渡って、安心・安全な市民生活を支える貴重な医療提供者としての役割を果たしてきた。 今日では、「開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図る」を基本理念として掲げ、「患者さんを主体とし、患者さんにとって最善の全人的医療の実践」や「静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図る」などを基本方針として医療を提供している。 一方で、医療を取り巻く環境は、医療職等の人材確保難、医療技術の高度化、複雑化、また、いわゆる団塊の世代が後期高齢者となる2025 年に向けた医療提供体制の改革など、その厳しさや変化の度合が増している。 このような状況下での病院経営は、環境の変化に即したスピード感ある対応が必要となるが、従前の「地方公営企業法の一部適用」という経営形態では、雇用における制約など、その対応に限界がある。 そのため、静岡病院の経営形態を地方独立行政法人に移行させ、より現場に近いところで的確な意思決定を行い、市の組織としての法律上の制約を受けることなく、迅速・柔軟に環境の変化に対応できるようにするものである。 今後、静岡病院は、地方独立行政法人化のメリットを最大限に発揮させ、医療の質の向上と人材確保、安全性と信頼性の向上、利用しやすく快適な病院づくりに取り組み、他の関係機関と連携・交流しながら、地域医療を支える要としての役割を果たしていく必要がある。 そしてこのことが持続的に行われるためには、職員にとって働きやすい職場環境の整備とやりがいづくりや、地方独立行政法人にふさわしい業務運営体制の構築を行うとともに、財務における健全経営の維持や、地球環境への配慮をしていく必要がある。 そこで、今後も市と静岡病院が連携して、市民が必要とする高度で良質な医療を安定的、継続的に提供するという公的使命を果たしていくに当たり、市はこれらのことについて目標を定め、静岡病院がその達成に向けて取り組むことを求めるものである。	

２　計画に係る実績及び自己評価

（１）全体的な実績（主な取組、成果、課題等）の状況

①　総括	②　大項目ごとの状況
平成 30 年度は、前年度より導入したＰＥＴ／ＣＴの安定的な稼動と、現有するＣＴ２台の更新、令和元年度に予定しているアンギオグラフィ（血管造影撮影装置）の増設に向けた準備などを進めた。また、日本医療機能評価機構による認定更新審査では、職種や部門にとらわれない横断的なプロジェクトチームを立ち上げ、業務改善や環境の整備に取組み、より安全で質の高い医療の提供を推進すると共に職員の経営参画意識の向上に努め認定を更新した。 組織体制としては新たに経営戦略本部「経営戦略室」を設置し、様々な経営課題について立案・検討を行った。また、従来の「教育研修管理室」をセンター化し、新専門医制度などへの対応、研修指導体制の更なる強化を図った。市民への広報活動として、市民向け健康講座の開催や学生向け体験セミナー、病院フェア開催のほか、ホームページのリニューアルを行い、見やすいレイアウトとより充実した医療情報の提供などにより当院の魅力を広くアピールした。 経営面では、入院・外来患者数の増加、平均在院日数の短縮、診療単価の増加により収益は前年度に比べて増加した。医業収益は、特に延入院患者数が 4,861 人増加するなどにより前年度に比べて増加した。医業費用は、給与改定などによる給与費の増加や診療材料費の増加などにより前年度に比べて増加した。結果、当期純利益は 66,304 千円の黒字となった。	**第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組** 前年度より開始した「がん教育」は、対象となる中学校を前年度の３校から８校へ広げて実施した。また、中高生を対象とした医療体験セミナーなどの開催により医療に関する知識の啓蒙と医療職への理解を深める取組みを行った。 ５年目を迎えた「静岡市民『からだの学校』」では、静岡市中心部だけでなく、井川、梅ヶ島、清沢においても引き続き開催し、地域の基幹病院として市民に必要な医療情報の発信を幅広く行った。 救急医療では、365 日 24 時間体制で患者の受け入れに努め、市内の公的病院の中で最も多く救急搬送患者を受け入れ、地域の救急医療機関として貢献した。 高度医療では、当院の特色でもある心・血管疾患の治療をより充実させるため、令和元年度のアンギオグラフィ（血管造影撮影装置）増設を目指し、必要となる機種選定や施設改修工事を進めた。前年度に導入したＰＥＴ／ＣＴの検査件数は平成 30 年度実績 804 件で、導入２年目も安定的に稼動し、高度で専門的な医療の提供を行った。 政策医療については、感染症指定医療機関としての役割を果たすべく、感染症施設・設備の点検整備と共に、防護服着脱訓練のほか、保健所・各感染症指定医療機関等との合同伝達訓練に参加し、迅速な対

応ができるよう受け入れ態勢の維持に努めた。また、平成 30 年度の精神科患者の受け入れ実績は 3,885 人（前年度 3,450 人）となり、引き続き精神疾患患者への対応を行った。周産期・小児医療では、産婦人科病棟の個室改修を実施し療養環境の改善を図った。糖尿病など生活習慣病患者に対しては、栄養サポートチーム（ＮＳＴ）による市民公開講座の開催、病棟回診や管理栄養士による食事指導を実施した。

災害時医療については、静岡県総合防災訓練に参加し、広域連携、官民連携を重点項目に大規模な訓練を実施した。また、院内訓練では災害対策本部訓練、傷病者受入訓練など訓練ごとにテーマを設け、より実践的・現実的な訓練を行うとともに、災害備蓄品の確認、補充など災害拠点病院としての役割を常に果たせるよう体制の維持に努めた。

チーム医療については、平成 30 年３月から精神科医師、認知症看護認定看護師等を中心とした「認知症ケアチーム」を新たに設置し、認知症状の悪化予防と認知症ケアの質の向上などを目的に、入院患者に対応した。先進医療機器や設備の整備では、多目的デジタルＸ線装置など、必要な医療機器の整備・更新のほか、産婦人科病棟の個室改修工事を実施した。

医療職の採用については、当院職員と看護専門学校の教員による定期的な意見交換会を行い、７対１看護配置を維持できる看護師数を引き続き維持することができた。また、臨床研修医については積極的なリクルート活動や医学生への支援を行い、定員 13 人をフルマッチングすることができた。

医療の安全性と信頼性の向上では、職員を対象とした医療安全研修会や感染対策研修会、個人情報保護研修会を開催し職員の知識向上と安全性の確保に努めた。

利用しやすく快適な病院づくりとして、外来採血業務の見直しを行い待ち時間の改善を図った。また、接遇研修を全８回開催し全職員の接遇への認識を深めスキルの向上を図った。市及び医療関係機関との連携については、病診連携システム「イーツーネット」の推進、静岡市公的病院協議会への参加や病診がんカンファレンスの定期開催などにより、医師会や各医療機関等との連携を図った。この他、地独病院担当者情報交換会への参加などにより県外の医療関係者との連携も積極的に進めた。

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

働きやすい職場環境と職員のやりがいづくりについては、前年度より試行していた「変形労働時間制」を平成 30 年度より正式に導入し、柔軟な勤務体制を可能とした。また、医師については「入退館システム」の導入により、客観的な勤務状況の把握を可能とし、長時間労働の改善に取り組んだ。その他、全国自治体病院学会への参加や看護研究発表会などを開催し、職員の意欲向上と職員相互のコミュニケーションの活性化に努めた。

業務運営体制の構築では、中長期的な視点から病院経営戦略を担う部署として、新たに経営戦略本部「経営戦略室」を設置した。また、従来の「教育研修管理室」を「教育研修管理センター」とし新専門医

制度への対応強化に取り組んだ。

市民との連携・協働による病院運営については、中山間地域で実施した「静岡市民『からだの学校』」を地元自治会との連携により開催した。また、地域の学生等を中心としたクリスマスコンサートの開催、「病院フェア」での患者友の会による出展など市民との協働による病院運営を行った。

外部評価等の活用については、第三者機関である日本医療機能評価機構による認定更新審査を受審した。受審に向けて全職種からなるプロジェクトチームを中心に、他院の運営状況調査や各種マニュアル・院内表示の整備など病院の質改善活動を行い、更新認定を受けることができた。また、顧問会計士との月次定例会や監事監査により適正な病院運営に努めた。

事務部門の強化では、前年度に引き続き医療機関での経験者や民間企業での実務経験者等６人を新たに採用し、派遣職員から法人職員への切り替えを進めた。

第３　財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

安定的な経営と、救急医療や周産期医療など政策医療の提供に努めた。経営状況をより多くの職員へ周知するため、部門連絡会・診療部会議などで広く説明すると共に、新たに電子カルテ端末上へ経営状況の掲載を開始し、職員間での情報共有を進めた。

入院患者数は 167,789 人と前年度に比べ 4,861 人増加し、外来患者数も 279,826 人と前年度に比べ 2,820 人増加した。また、入院単価は 77,066 円、外来単価は 18,196 円といずれも前年度単価を上回ることができた。費用については、薬価交渉、診療材料価格の交渉とともに、後発医薬品への切り替えを進め材料費の縮減に努めた。医業収益は、入院・外来患者数の増加、平均在院日数の短縮、診療単価の増加により、前年度に比べて増加した。医業費用は、給与改定などによる給与費の増加や診療材料費の増加などにより前年度に比べ増加した。当期純利益は 66,304 千円の黒字となった。

第４　その他業務運営に関する重要事項を達成するための取組

環境に配慮した業務運営を目指し、ＬＥＤ照明への切り替えや温水ポンプの制御機能改善により、電力消費量や CO2 排出量の削減に努めた。また、紙の分別収集に取り組みゴミの減量と処理費用の縮減を図った。

（２）小項目ごとの実績及び法人自己評価

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

１　地域医療を支える要としての静岡病院

（１）広大な市域を支える要としての活動

中期目標	中山間地を含む広大な市域を有する本市において、市民が安心して日々の生活を送るため、都市部や中山間地の住民が等しく医療についての理解を深める活動を行うこと。 また、将来を担う若者を対象に、医療及び医療職に対する理解を深める活動を行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
本市の都市部及び中山間地域において、「静岡市民『からだ』の学校」を開催し、市民へ医療情報を発信します。 また、教育関係機関と連携しながら生徒に対しても情報提供を行い、医療及び医療職についての理解を促進します。 上記について専門的に対応する部署として「医療がつなぐ『ひと』と『地域』の交流センタ	本市の都市部及び中山間地域において、「静岡市民『からだ』の学校」を開催し、市民へ医療情報を発信します。 また、教育関係機関と連携しながら生徒に対して医療及び医療職についての情報提供を行い、その理解を促進します。	平成２９年度より開始した「がん教育」の活動について、平成３０年度は対象の中学校を８校（平成 29 年度実績３校）にまで拡大して実施した。 市民に病院を身近に感じてもらう「第 15 回静岡病院フェア」を開催（平成 31 年３月）した。医師、看護師など多職種で準備を進め、手術などの模擬体験コーナーや、血管年齢チェック、健康体操などを実施した。幅広い世代の市民が当院を訪れ（来場者数 530 人）イベントを通して職員との親睦を図った。 引き続き、「静岡市民『からだ』の学校」を実施し、平成 30 年６月に第９回を開催、産婦人科医による講演等に 253 人が	３		

ー」を設置します。		参加した。同様に、中山間地域（井川、梅ヶ島、清沢 8 月～9 月開催）での開催には 111 人の参加があった。平成 30 年 10 月には第 10 回が開催され、創立 150 周年を迎える当院の歴史等を紹介する講演に 189 人が参加した。 夏休み期間には、中高生向けの医療体験セミナー等を開催し、「ブラックジャックセミナー」（参加者 34 人）、「こころざし育成セミナー」（参加者 52 人）、「高校生 1 日ナース体験」（参加者 98 人）を実施した。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
静岡市民「からだ」の学校開催	都市部２回 山間部３回	都市部２回 山間部３回	都市部２回 山間部３回
中高生の病院体験セミナー開催	高校生１回 中学生２回	高校生１回 中学生２回	高校生１回 中学生２回
中学生を対象とした職場体験学習	５名	17 名	８名

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

１　地域医療を支える要としての静岡病院

（２）救急医療

中期目標	地域の救急医療を担う中核的な病院として、本市の救急医療体制のもと、他の医療機関と連携しながら、引き続き365日24時間の「ことわらない救急」を実践し、市民が安心できる救急医療を提供すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
他の医療機関と連携しながら365日24時間の「ことわらない救急」を継続します。 また、高度な救急医療の提供のために、新たに「救急科」を設置します。	他の医療機関と連携しながら365日24時間の「ことわらない救急」を提供します。	救急医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、地域の中での当院の役割を充分認識し、平成３０年度も質の高い救急医療を提供した。 平成 30 年から開催された静岡市主催による「救急医療体制協議会」に参加し、各病院の救急医療体制の現状や、当番日の割り振りなどについて議論を重ね、当院も可能な限り協力体制を維持した。この結果、平成３０年度の市内公的病院輪番制による２次救急医療（当番日）の実績は内科86日、外科90日、小児科24日であった。 当院が受け入れた救急搬送患者の人数は平成３０年度実績で6,180人となり、成果目標である「救急搬送患者数の市内公的病院全体の中での当院が占める割合」	３		

は、平成 30 年度実績 21.3%となり、目標値には届かないものの、受け入れ人数は市内公的病院の中で最も多い結果となった。さらに、重症な患者を多く受け入れていることを示す「救急医療係数」についても、引き続き、県内 DPC 特定病院の中で当院が一番高い実績（平成 30 年度）となった。また、止むを得ず不応需となった事例については、毎月開催している救急業務委員会にて検証を行った。

消防と連携し、救急救命士の実習受入施設として、平成３０年度は救急救命士 18 人（実習延べ日数１０１日）を受け入れた。

【成果指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績
救急搬送患者数の市内公的病院全体の中での当院が占める割合	21.3%	21.1%	23.0%以上	21.3%

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
救急患者数	13,523 人	13,353 人	13,159 人
救急車搬送数	5,894 人	6,161 人	6,180 人

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

１　地域医療を支える要としての静岡病院

（３）高度医療

中期目標	本市の基幹病院として、高度医療を提供する必要があるが、特に次の点について重点的に取り組むこと。 ①心疾患 「心臓なら静病」という市民の期待にしっかり応えるため、「ハートセンター」において、地域の心疾患治療を牽引する専門性の高い先進的な治療を行うこと。 ②がん 地域がん診療連携拠点病院として、日進月歩の様々な治療方法に的確に対応した先進的で質の高いがん治療を行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
本市の基幹病院として、高度医療を提供する必要がありますが、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①心疾患 「ハートセンター」において、循環器内科と心臓血管外科が連携して、従来から高い実績を持つ心臓血管手術や	本市の基幹病院として、高度医療を提供する必要がありますが、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①心疾患 「ハートセンター」において、循環器内科と心臓血管外科が連携して、従来から高い実績を持つ心臓血管手術や	前年度に引き続き、ハートセンター（循環器内科・心臓血管外科）により、最先端の心臓・血管疾患の治療を提供した。 また、当院の特色である心臓・血管疾患の治療をより効率的に提供することができるよう、アンギオグラフィの更新に向けて、必要な施設改修工事や機種の選定などを実施した。平成 31 年１月から開始した改修工事は、令和元年６月末に完成し、最新のアンギオグラフィを加え、従来の３台体制から４台体制での診療ができる見通	４		

カテーテル治療などの幅広い専門的な治療を行うとともに、ＣＴや血管造影を行いながら手術ができるハイブリッド手術室や経カテーテル大動脈弁置換術（ＴＡＶＩ）などによる先進的な医療を行います。 ②がん 　手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺がん手術以外への新たな展開や「リニアック」による放射線治療を継続して実施します。 　また、新たにＰＥＴ-ＣＴの導入により画像診断の充実を図るなど、がん診療体制を強化していきます。	カテーテル治療などの幅広い専門的な治療を行うとともに、ＣＴや血管造影を行いながら手術ができるハイブリッド手術室や経カテーテル大動脈弁置換術（ＴＡＶＩ）などによる先進的な医療を行います。 ②がん 　手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺がん等の手術や更新したリニアックによる質の高い放射線治療を継続して実施し、ＰＥＴ／ＣＴによる画像診断の充実や病病連携の強化（周知等の活動）を図ります。 　また、近隣の健診施設と連携し、がんの早期発見に有効なＰＥＴ／ＣＴによるがん検診の導入に向けた取り組みを実施します。	しとなった。 　がん治療については、PET／CT や手術支援ロボット「ダヴィンチ」などの高度な医療機器を生かし、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療を提供した。導入後２年目となる PET／CT の検査件数は、平成３０年度実績804 件で、引き続き、安定的に稼動させることができた。 　また、高度な治療だけでなく、院内の緩和ケア内科、緩和ケアチームを中心に、がん患者の苦痛を和らげる専門的で質の高いケアを提供した。さらに、がん相談支援センターにより、患者や家族の抱える様々な不安などに対し、迅速で丁寧な対応に努めた。地域がん診療連携拠点病院の役割として「遺伝子外来」を設置し、遺伝子カウンセリング及び遺伝子検査を実施した。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
心臓血管外科			
手術総数	870 件	850 件	852 件
開心術	375 件	367 件	370 件
循環器内科			
心臓カテーテル検査	2,596 件	2,540 件	2,569 件
冠動脈インターベンション	477 件	469 件	545 件
ＴＡＶＩ	22 件	37 件	52 件

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
前立腺がん手術件数	52 件	63 件	56 件
がん手術件数	994 件	947 件	978 件
放射線治療件数	254 件	264 件	287 件
疾病分類別（新生物（悪性））入院患者数	2,444 人	2,298 人	2,553 人

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

１　地域医療を支える要としての静岡病院

（４）政策医療

中期目標	公的病院として、市民ニーズに応じて採算性にかかわらず必要な医療を提供していかなければならないが、特に次の点について重点的に取り組むこと。 ①感染症及び精神疾患患者身体合併症 本県で唯一の第一種感染症指定医療機関としての役割を果たすとともに、精神疾患患者の身体合併症に対応する医療を提供すること。 ②周産期及び小児 本市で子どもを安心して産み育てることができるよう、専門的な周産期医療や小児医療を提供すること。 ③生活習慣病 超高齢社会の到来に伴い、患者数の増加が予想される糖尿病等の生活習慣病などに対して専門的な医療を提供すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
公的病院として、市民が日々安心して暮らすために必要な医療を提供していかなければなりませんが、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①感染症及び精神疾患	公的病院として、市民が日々安心して暮らすために必要な医療を提供していかなければなりませんが、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①感染症及び精神疾患	エボラ出血熱など第一類感染症の発生に備え、県内唯一の感染症指定医療機関としての役割を果たせるよう、受け入れ態勢について万全を期した。 各保健所、静岡県、各感染症指定医療機関が、災害時にそれぞれの入院状況や被災状況等の情報共有が図れるよう合同で伝達訓練を実施した（平成 30 年８月）。	３		

患者身体合併症 　本県で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、また、本市において重要な役割を担う第二種感染症指定医療機関であるため、その役割を果たせるようエボラ出血熱などの感染症患者にも対応できる医療体制を確保し、迅速な患者の受け入れに備えるとともに、精神疾患患者の身体合併症治療を行います。 ②周産期及び小児 　本市で子どもを安心して産み育てることができるよう、専門的な周産期医療や小児医療を提供します。 ③生活習慣病 　糖尿病、動脈硬化、高血圧症などの生活習慣	患者身体合併症 　本県で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、また、本市において重要な役割を担う第二種感染症指定医療機関であるため、その役割を果たせるようエボラ出血熱などの感染症患者にも対応できる医療体制を院内感染委員会等を通じて常に整え、保健所等関係機関との連携により迅速な患者の受け入れに備えるとともに、精神疾患患者の身体合併症治療を行います。 ②周産期及び小児 　専門的な周産期医療や小児医療を安定的に提供します。 ③生活習慣病 　糖尿病治療、糖尿病性網膜症・腎症・動脈硬	さらに、平成 30 年 11 月には、国内に新型の病原体が侵入した場合を想定した同様の合同訓練を実施するなど、各関係機関との連携強化を図ることができた。 　感染症病棟スタッフを対象とした、個人用防護服の着脱訓練、患者受け入れシミュレーションなどの研修を開催した（平成 30 年８月）。また、感染症病棟内の設備などについて保守点検を実施し、受け入れ体制の維持に努めた。 　精神科と各診療科が連携して診療を行い、平成３０年度の身体合併症を伴う精神疾患患者数の実績は 3,885 人となった。 　周産期・小児医療については、引き続き、地域周産期母子医療センターとして、質の高い医療を提供するとともに、産婦人科病棟の改修を実施し、アメニティーの向上を図った。平成３０年度実績の分娩件数は 191 件、母体合併症のあるハイリスク症例（妊産婦合併症例）は 21 件となった。また、更なる産科医療の質の向上に向けて、シミュレーションラボ室を活用し、一定レベル以上の新生児蘇生法を習得するため、実技講習を毎月実施した。			

病について、幅広く専門的な医療を提供するとともに、講習会などの予防に係る啓発活動も行います。	化症などの合併症や高血圧症への治療を、本院の総合病院機能の活用や、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等で構成されるチームにより専門的に行います。 また、講習会の開催などの予防に係る啓発活動を行います。	糖尿病など生活習慣病の患者に対し、院内の栄養サポートチーム（ＮＳＴ）による病棟回診（平成 30 年度実績 78 回）や、管理栄養士による入院患者への食事指導（平成 30 年度実績 4,107 件）、を実施した。また、予防啓発活動として、第８回栄養サポートチーム市民公開講座（平成 30 年 11 月）を開催した。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
小児科患者数			
入院	2,374 人	2,451 人	2,296 人
外来	4,603 人	4,928 人	4,942 人
分娩件数	311 件	261 件	191 件

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
栄養指導件数	3,121 件	3,582 件	4,107 件

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

１　地域医療を支える要としての静岡病院

（５）災害時医療

中期目標	南海トラフ巨大地震等の発生が想定される中、静岡病院には災害時における重症患者の受け入れ等の中核的な医療の提供が求められる。 災害拠点病院として、日頃から、その発生に備え、人的・物的資源を整備し、訓練を行い、発生時には関係機関と連携しながら、また自らの判断で必要な対応を迅速に行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　地震防災対策マニュアル等について病院機能の損失度に応じた見直しを行うとともに、災害対応の訓練を日頃から行い、発生時においては、関係機関と連携しながら、また自らの判断のもと、必要な医療救護活動を迅速に実施します。 b　非常電源や水源の確保など災害時に必要となる施設・機器の更	a　地震防災対策マニュアル等について病院機能の損失度に応じた見直しを行うとともに、災害対応の訓練を行い、発生時において、関係機関と連携し、また自らの判断のもと、必要な医療救護活動を迅速に実施できるように備えます。 b　非常電源や水源の確保など災害時に必要となる施設・機器の更	静岡県総合防災訓練（平成 30 年９月開催）の開催地が１０年ぶりに静岡市となり、広域連携・官民連携などを重点項目に、災害対策本部の設置及び被害状況や患者情報の集約と取りまとめを行う情報伝達訓練や傷病者受入訓練、応急危険度判定、水道給水車受け入れなど、大規模な訓練を実施した。さらに、当院の総合防災訓練（平成 31 年 2 月開催）として、災害時において自主的に迅速な行動ができる事を目的とした、トリアージによる傷病者の受入訓練を行った。また、火災を想定した病棟患者の避難誘導を主体とした総合消防防災訓練を実施（平成 30 年 10 月）するなど、開催する訓練ごとにテーマを決めて効	３		

新や維持管理を行うとともに、医薬品や医療資器材、食料の必要な備蓄等を行います。 c　市外における大規模災害発生時の援助要請に応えられるよう、引き続き災害医療派遣チーム（DMAT）を編成します。 d　大規模災害発生時等に災害現場等から重症患者を受け入れるため、ヘリポートの設置可能性を検討します。	新や維持管理を行うとともに、医薬品や医療資器材、食料の必要な備蓄等を行います。 c　災害医療派遣チーム（DMAT）を編成して訓練を行い、市外における大規模災害発生時の援助要請に備えます。 d　ヘリポート施設設置の可能性について、工法、運用面及び財政面等を総合的に勘案して検討します。	率的な訓練を実施した。その他に、全職員への一斉メールによる伝達訓練を平成30年６月、９月、12月、平成31年３月の計４回実施した。 　非常用発電機用蓄電池の更新、設備の定期点検を実施し、備蓄食料などについての確認・補充を行った。（平成30年９月購入、飲料 1,200 本、非常食 1,764 食 ）大規模災害時、現地で迅速に医療救護活動が行なえるよう、引き続き、当院の災害医療派遣チーム（DMAT）が合同訓練に参加した。平成30年８月には、政府主導の大規模地震時医療活動訓練に当院のDMAT（医師１名、看護師２名、薬剤師１名、事務１名）１チームが参加し、６県の会場（大分県、宮崎県等）に全国から約370チームが集まる大規模な訓練に参加した。			

【関連指標】

項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績
防災訓練	４回	２回	４回
研修など	４回	４回	６回

項目	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績
DMAT訓練回数	３回	４回	４回

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
２　医療の質の向上と人材の確保
（１）総合的な診療とチーム医療の実施

中期目標	医療の高度化、複雑化に対応し、より患者に寄り添った治療を行うため、診療科や職種を超えた連携により、総合的な診療とチーム医療を提供すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
患者一人ひとりに最適な専門医療を提供するため、診療科や職種の枠を超えた連携により、総合的な診療とチーム医療を推進するとともに、そのための医療スタッフの養成に取り組みます。	当院のチーム医療（ハートセンター、消化器総合センター、呼吸器センター、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、がんリハビリテーション、褥瘡対策チーム、呼吸サポートチーム）を推進し、診療科や職種を超えた連携により、それぞれの専門性を生かした質の高い医療を一体的に提供します。	医師、看護師などの多職種が連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮して質の高いチーム医療を実践した。 平成 30 年 3 月から、新たに「認知症ケアチーム」が活動を開始した。身体疾患のために入院した認知症患者の認知症状の悪化防止と、病棟におけるケアの質の向上を図るため、精神科医、認知症看護認定看護師を中心とした多職種チームで週 1 回の病棟ラウンドを実施した。「認知症ケアチーム」の設置により、総合的かつ専門的な急性期医療を提供する病院を評価する「総合入院体制加算２」を取得した。（平成 30 年６月取得） 関連指標以外の主な実績として、がんリハビリテーション延べ件数 2,436 件、褥瘡対策チーム（回診週 1 回）、呼吸サポー	4		

		トチーム（回診週１回）を実施した。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
心臓リハビリ件数	731 件	807 件	897 件
栄養サポートチーム回診件数	89 件	62 件	78 件
緩和ケアチーム対応患者数	59 人	88 人	74 人

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
２　医療の質の向上と人材の確保
（２）先進医療機器や設備の整備

中期目標	医療の高度化への対応や、医療水準を維持するために、先進医療機器や設備等を的確に整備・更新すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　新たな医療機器の開発状況、他の医療機関における状況などを踏まえて、ＰＥＴ-ＣＴなどの先進医療機器を整備します。 b　医療機器・施設の稼働状況や耐用年数、他の医療機関における状況などを踏まえて、アンギオグラフィ（血管撮影装置）や付帯設備の更新など、医療機器や施設を整備・更新します。	a　新たな医療機器の開発状況、他の医療機関における導入状況などを踏まえて先進医療機器を整備します。 b　医療機器・施設の稼働状況や耐用年数、他の医療機関における状況などを踏まえて、医療機器（アンギオグラフィなど）や施設を整備・更新します。	当院の高度専門医療に必要な大型医療機器の更新作業などに取り組んだ。 アンギオグラフィは、使用頻度が高いことから４台目の導入を決定し、設置に関する仮設計画や工程を慎重に検討した上で、機器の選定及び契約は平成 30 年６月実施、改修工事は平成 31 年 1 月に着手した。 ＣＴについては、稼働中の 2 台を新機種へと更新した。常に 2 台稼動している状態を維持しながら新機種へと１台ずつ更新していく必要があるため、一定期間、別途モバイルＣＴを臨時で設置し、２台稼動できる体制を維持した。 その他、多目的デジタルＸ線ＴＶ装置、泌尿器専用Ｘ線透視装置、ベッドパンウォッシャーなどの購入を行った。	３		

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
２　医療の質の向上と人材の確保
（３）医療職の確保、知識の習得、技術の向上

中期目標	医師、看護師等の医療職を確保するとともに、医療の高度化、複雑化に対応するため、その専門性や技術の向上を図ること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　地方独立行政法人の特徴を生かし、従来の定数管理や雇用形態・勤務形態にとらわれず、多様な雇用形態等を取り入れ、必要な時に必要な医療職を確保します。	a　医療職について必要な時に必要な人数を随時採用するとともに、女性医師等のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた柔軟な勤務体制を整備し、制度の利用促進に努めます。	法人化のメリットを生かし、必要なときに必要な人員を迅速に採用した。 随時、採用試験を実施（年４回）し、平成 30 年７月 医師２人、平成 30 年 10 月 医師３人、平成 30 年 11 月 看護師１人、言語聴覚士１人、平成 31 年１月 医師４人を採用した。 ７対１看護配置に向けた看護師の増員数は 92 人と目標である 90 人を上回ることができた。	３		
b　医師、看護師、薬剤師、医療技術者等について、院内研修の充実や研究・研修会への参加を促進するとともに、専門資格取得のため、院外の教育研修等	b　院内研修の充実や研究・研修会への参加を促進します。また、資格取得を支援するため予算処置を講じ、診療報酬上必要な資格の取得については、専門医	職員の資格取得の支援については、審議が必要な案件について、専門医等資格取得委員会で必要性等を審議し（平成 30 年度実績４件）、対象の職員に受講費用や旅費などを支給した。 看護実習生を受け入れる当院の指導者と看護専門学校の教員とが、定期的な意見			

への参加を支援します。 c　静岡市立看護専門学校等との連携を図り、優れた看護師の養成を支援します。	等資格取得支援委員会に諮り、資格保持者の欠員がでないように措置していきます。 c　看護実習の場の提供等により、静岡市立看護専門学校等との連携を図り、優れた看護師の養成を支援します。	交換会など（グループワーク年８回、看護技術講習平成３０年６月開催）を実施して連携を図り、実習がより効果的に行なわれるよう実習環境の向上に努めた。平成３０年度は、静岡看護専門学校、常葉大学、静岡県立大学、神戸常盤短期大学、大阪保健福祉専門学校の合計５校から看護実習生を受け入れた。			

【成果指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績
７対１看護配置に向けた看護師の増員数（H25 年度比）	65 人	53 人	90 人	92 人

【関連指標】

項目	平成 28 年４月１日	平成 29 年４月１日	平成 30 年４月１日
医師数	150 人	158 人	154 人
看護師数	496 人	484 人	523 人

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
専門医資格取得数	151 件	177 件	180 件
指導医資格取得数	65 件	72 件	85 件
認定看護師数（人）	９人	11 人	１２人
看護実習受入人数	213 人	295 人	281 人

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
２　医療の質の向上と人材の確保
（４）臨床研修医の育成

中期目標	臨床研修病院として、ニーズに合致した魅力的なプログラムの構築等により教育研修機能の充実を図り、臨床研修医の育成に積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
研修医の要望や社会的な要請に合致した研修プログラムの充実、研修プログラム及び指導医・研修医に対する評価による研修内容のさらなる向上により、臨床研修医の受け入れ推進と定着を図ります。	臨床研修運営委員会、臨床研修管理委員会を開催し、研修プログラムの充実を図り、特に研修医からの要望が強い模擬実習について、高度な技術を効率よく習得できる実習施設（シミュレーションラボ）の活用など、当院の特長を活かした研修や実習を充実させることで、臨床研修医にとって魅力ある職場環境を示し、人材の確保と定着を図ります。	教育研修管理室を平成 30 年４月から新たに「教育研修管理センター」とし、新専門医制度への対応、研修指導体制の更なる強化などに取り組んだ。 臨床研修医の安定的な採用に向けてレジナビフェア５回、東海北陸厚生局や静岡県主催のリクルートイベントなど計 8 回参加し、各地の大学から 94 人（平成 30 年度実績）の病院見学を受け入れた。また、当院とかかわりの深い大学を中心に医学生（21 人）を約２週間にわたり実習生として受け入れ、見学や実習を通じ、当院の医療現場や研修施設としての魅力を直接感じていただくことができた。 臨床研修が円滑でより充実したものとなるよう、臨床研修運営委員会を毎月２回	4		

開催し、医師、看護師、研修医の代表などが活発に意見交換を行った。その他に、各種研修プログラム実施や模擬実習が可能なシミュレーションラボの活用（研修医延べ 284 人利用）により、研修プログラムの充実を図った。

その結果、研修医を対象としたアンケートにおいて、満足度 96.0%という結果を得ることができた。

臨床研修医募集定員充足率は、募集定員 13 人に対し応募は 31 人でフルマッチングとなり目標値を達成した。

専攻医の採用に向けては、リクルートイベントなどへの積極的な参加や、初期研修医への説明会の開催などを実施し、結果、次年度の専攻医は 7 人（内科５人、外科２人）となり、前年度に比べ 3 人の増となった。

【成果指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績
臨床研修医募集定員充足率	100%	100%	100%	100%

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
臨床研修医マッチング数	13 人	13 人	13 人

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
２　医療の質の向上と人材の確保
（５）調査・研究、治験の実施

中期目標	より質の高い医療を提供するための調査・研究、治験に積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
新しい治療法の開発等に貢献する臨床研究や治験に積極的に取り組みます。 なお、実施にあたっては、参加者の自発的意思や人権に対して最大限配慮いたします。	新しい治療法の開発等に貢献する臨床研究や治験に、参加者の意思を尊重しながら積極的に取り組みます。	患者の人権や安全確保に最大限配慮しながら薬の研究開発等に貢献するため、委員会での慎重な審議を実施した。 各委員会の平成 30 年度実績は、医学系研究等倫理審査委員会が審査 23 回(迅速審査含む)、審議 93 件、治験審査委員会は、審査９回、審議 150 件であった。 臨床研究が適正に実施されるよう臨床研究法が施行（平成 30 年 4 月施行）となり、対応として、マニュアル等の作成、院内周知及び外部講師による講演会(平成 30 年6月 参加者 141 人）を開催した。	３		

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
治験実施件数	６件	５件	５件
治験実施率	79%	83%	92%

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

３　医療の安全性と信頼性の向上

（1）十分な情報提供と適切な取扱い

中期目標	患者との信頼関係の構築に努め、患者への十分な情報提供・説明と同意のもとに医療を提供すること。 診療情報を適切に管理するとともに、患者情報の保護及び病院に係る情報の公開に関しては、静岡市個人情報保護条例及び静岡市情報公開条例に基づき適切に対処すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　常に患者やその家族の立場に立ち、誠意を持った応対を心がけるとともに、医療の提供に当たっては、インフォームドコンセント（患者へ診療の目的や内容を十分に説明し、その同意を得ること）を徹底します。また、患者やその家族が、治療法等の判断に当たり主治医とは別の医師の意見を求めたとき、適切にセカンドオピニオン（患者及びその家族	a　常に患者やその家族の立場に立ち、誠意を持った応対を心がけるとともに、医療の提供に当たっては、インフォームドコンセントを徹底します。また、治療計画書を活用し、入院中の診療スケジュールについてわかりやすく説明します。そして、患者やその家族が、治療法等の判断に当たり主治医とは別の医師の意見を求めたとき、適切にセカンドオピニオ	専門的な知識を持ち合わせていない患者や家族が、治療方法などを十分に理解できるようインフォームドコンセントを徹底するため、具体的な説明内容や手順などを明記したガイドラインを作成し（平成30年７月作成）職員への周知を行った。 また、患者が納得のいく治療法を選択することができるようセカンドオピニオンについてもガイドラインに明記し、患者の権利や意思を尊重するよう院内全体に周知した。 市民に医療の知識を少しでも身につけてもらい、自らの身体を理解していただくため、『静岡市民「からだ」の学校』（都市部２回、中山間地３回）を開催した。 さらに、市民に身近な病気の仕組みや予	３		

が、病状や治療法等について、主治医とは別の専門医に意見を聴くこと）を受けられる体制の整備を行います。 b　定期的な市民公開講座や、「患者の会」への医師等による講演、医療相談等を実施し、疾病に係る患者理解を促進するとともに、病院と患者との信頼関係の醸成を図ります。 c　患者情報に係る保護及び病院に係る情報の公開については、市の関連条例の実施機関として、適切に取り扱います。	ン（患者及びその家族が、病状や治療法等について、主治医とは別の専門医に意見を聴くこと）を受けられる体制の整備を行います。 b　定期的に市民公開講座を実施します。また、病院施設内に、心臓病、消化器病、糖尿病などの「患者友の会」が活動しやすい場所を提供するとともに、医師等による講演や医療相談等を実施し、疾病に係る患者理解の促進を図り、病院と患者との信頼関係の醸成を図ります。 c　患者情報に係る保護及び病院に係る情報の公開について、市の関連条例の実施機関として、適切に取り扱います。	防方法などを理解してもらい、講演会などを通じて当院の医療職との交流を深めていただくことを目的とした「出前講座」を実施した。（平成 30 年度実績 21 回、参加人数 546 人） 患者友の会（心臓病友の会、糖尿病友の会、消化器病友の会）が主催する研修会に当院医師が講師として出席するほか、旅行やレクリエーションイベントにも同行するなど、患者との交流を深め信頼関係の醸成を図った。 当院が保有する患者の個人情報について、個人情報保護に関する法令およびその他の規範を遵守するよう職員へ周知した。外部講師を招き、個人情報保護研修会（平成３０年 12 月　124 人参加）を開催し、法律のポイントやソーシャルメディア（ＳＮＳ）のリスクなどについて学んだ。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
セカンドオピニオン件数			
受入	29 件	28 件	23 件
紹介	42 件	65 件	64 件

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
診療録開示件数	58 件	48 件	64 件

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

３　医療の安全性と信頼性の向上

（2）医療安全管理等の徹底

中期目標	市民に信頼される安心・安全な医療を提供するため、医療安全に係る情報の収集・分析を踏まえた医療安全管理を行うとともに、院内感染防止対策を実施すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療安全管理室が中心となって、医療安全に係る情報収集及び分析、改善案の立案、院内教育研修などの医療安全管理を行うとともに、感染管理室が中心となって、感染症に係る情報収集及び分析、院内の調査・監視などの院内感染防止対策を実施します。	医療安全管理について、医療安全管理委員会を毎月開催し、各部署の問題点等の検討や各種マニュアルの見直し等を行うとともに、医療安全研修会を定期的に開催します。 また、院内感染防止について、院内感染対策委員会を毎月開催し、感染対策マニュアルの周知徹底・啓発及び感染者情報等の共有を行うとともに、感染管理認定看護師を中心とした研修会等を実施	安全な医療を推進するため、医師、看護師、コメディカルならびに事務職員の全てが、部署を超えて職域横断的な取り組みを継続するとともに、医療安全管理室が中心となり、組織として個々の職員への安全に対する意識付けに取り組んだ。 医療法で定められている医療安全研修会の開催（年２回）について、研修会の開催はもちろんのこと、職員の参加率の向上に努めた。研修への参加機会を増やすため、研修に参加できない職員向けのビデオ上映会を前年度よりも多く開催（平成 29 年度実績 7 日間 39 回、平成 30 年度実績 9 日間 67 回）し、未受講の職員へ各所属及び本人へ直接メール連絡等を実施した結果、参加率の向上を図ることができた。（参加率平成 29 年度実績 74.3%、	３		

	します。	平成 30 年度実績 86.7%） 　転院患者から多剤耐性アシネトバクター（ＭＤＲＡ）が検出された事象では、院内感染対策委員会の他、ＭＤＲＡ対策コアメンバー会議を適宜開催し、速やかに対応した。国立感染症研究所より専門家を招き対策の検証・評価を受けながら、過酸化水素による除染、カーテン・マット類の交換、吸引手順の見直し、看護師による個別手順指導の実施、環境調査などの感染対策に取り組んだ。また、職員を対象に多剤耐性菌への対策をテーマとした院内研修会を開催した。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
医療安全管理委員会開催回数	12 回	12 回	12 回
医療安全研修会等実施数	15 回	15 回	16 回
院内感染対策委員会開催回数	17 回	12 回	20 回
院内感染対策研修会等実施回数	8 回	11 回	9 回
院内ラウンド件数	週 1 回	週 1 回	週 1 回

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
３　医療の安全性と信頼性の向上
（3）市民への積極的な広報

中期目標	病院の役割や機能、経営状況などについて、市民にわかりやすく情報提供すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
病院の理念・基本方針、各診療科の特色や治療実績、クリニカルインディケーター、財務諸表等の経営状況などについて、病院ウェブサイトや静岡病院広報紙などを通じて、市民にわかりやすく広報します。	病院の理念・基本方針、各診療科の特色や治療実績、クリニカルインディケーター、財務諸表等の経営状況などについて、病院ウェブサイトへ掲載し、随時更新を行うとともに、病院広報紙を院内各所へ設置するなど、市民にわかりやすく広報します。また、より情報発信力の高いウェブサイトへと全面リニューアルを実施し、利用者にとって使いやすく、かつ易しいウェブサイトの	平成 30 年 4 月、病院のホームページが新しくなり、スマートフォン対応としたほか、外来受診の案内、診療科の紹介など、写真等による見やすいレイアウトで患者に必要な情報を掲載した。また、各診療科の診療実績や地域医療連携、病院の経営状況など、医療従事者向けの情報を掲載するとともに、採用情報などの学生向けコンテンツを充実させ、当院の魅力を広くアピールした。 また、ホームページの更新頻度の向上を図るための取り組みとして、煩雑な更新作業の分業を推進するため、ホームページ担当者以外の職員も更新作業が行なえるよう、マニュアルの配付、教育を実施した。	３		

	運用に努めます。				
【関連指標】 項目 / 平成 28 年度実績 / 平成 29 年度実績 / 平成 30 年度実績 静岡病院広報紙 / 6 回 / 6回 / 6回 年報 / 1 回 / 1 回 / 1 回					

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

４　利用しやすく快適な病院づくり

（1）患者第一の病院づくり

中期目標	患者の立場を第一に考え、患者に寄り添った医療の実践に向け、医療サービスの提供や施設等の整備に当たっては、患者の視点に立って行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
病院の基本方針として、患者にとって最善の全人的医療を実践する旨を掲げるとともに患者の権利を明示し、これらに基づいて患者の立場を常に意識しながら医療サービスの提供や病院施設等の整備を行います。	病院の基本方針として、患者にとって最善の全人的医療を実践する旨を掲げるとともに患者の権利を明示し、これらに基づいて患者の立場を常に意識しながら医療サービスの提供や病院施設等の整備を行います。	患者の視点に立った医療サービスの提供について、産婦人科病棟の療養環境の向上に向けた改修を行った。個室の面積を広げ、個室内にトイレや大型洗面台の設置、窓の二重サッシへの変更などを実施し、より快適な環境で入院していただくことができるようになった。この他、病院内の案内図など掲示物の見直しを行い、よりわかりやすい表示に更新した。	３		

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

４　利用しやすく快適な病院づくり

（２）患者ニーズに応じた医療・病院環境の提供

中期目標	提供する医療や病院環境に係る患者ニーズを把握して、そのニーズに対応し、患者にとって利用しやすく快適な病院づくりを進めること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　患者満足度調査などによって患者ニーズを把握し、そのニーズを満たすために必要な改善を行います。 b　患者にとって利用しやすい病院環境を確保するため、待ち時間調査を実施し、待ち時間を短縮できる方策を検討するとともに、待ち時間をなるべく有意義に過ごしてもらえるよう、診察待ちの患者さんに対し体操指導を	a　アンケート等により患者ニーズを把握し、院内施設等の改修や診療体制等の運用面の改善に努め、ハードとソフト両面から快適な環境を提供します。 b 患者にとって利用しやすい病院環境を確保するため、待ち時間調査の実施及び対応策の検討等を行い、会計等の待ち時間の短縮につながる具体的な取組みを実施します。さらに、待ち時間をなるべく有意義に過ごしてもらえ	前年度に引き続き、患者満足度調査を実施し、患者ニーズの把握に努め、平成 30 年度実績は 89.9.%となり、前年度実績の 88.7%を上回る結果となった。設問別では会計担当者の繋閑にあわせた柔軟な配置などの取組みにより、会計待ち時間の評価（5 段階評価）が前年度の 2.94 から 3.22 へと改善された。外来採血の待ち時間対策として、平成 30 年 4 月から、6 台ある採血台が常にフル稼働できるよう全検査技師を動員して対応するとともに、待合スペースの確保及び採血台の増設について検討を行うなど、改善に向けて取り組んだ。さらに、超音波検査では、予約時間と受付時間、診察や他の検査との綿密な調整を行うことにより、待ち時間の改善を図った。診察時における丁寧な説明と対応を	3		

行うなど、改善に向けた取り組みを実施します。 c　胆石摘出など短期間の入院が見込まれる患者が、入院治療をもっと身近に利用できるよう、患者が利用しやすい診療体制や運用方法等を管理する専門部署の設置について検討を進めます。 d　患者にとって快適な病院環境を確保するため、花や緑による緑化など、安らぎの空間を院内に整備します。 e　市民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが患者の立場に立った接遇の実践ができるよう病院の全職員を対象とした接遇研修を毎年実施します。	るよう、診察待ちの患者さんに対し体操指導を行うなど、患者の利便性等の向上に努めます。 c 短期間の入院治療について、収益性、患者の利便性、ケアの必要性などを考慮し、外来診療からの切り替え等を含めて検討します。 d　花や緑のある安らぎの空間について、他の医療機関の状況や感染管理を考慮し、院内へ配置します。 e　市民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが患者の立場に立った接遇の実践ができるよう病院の全職員を対象とした接遇研修を実施します。	心がけながら、待ちの時間対策を行い少しでも患者の負担軽減となるよう努めた。 「病院にふたたび花を」プロジェクトでは静岡デザイン学校の協力によるアレンジメントフラワーの展示（年７回）や、メンテナンスフリー切り花の設置など、来院する患者や家族に対し、安らぎの空間を提供した。 患者や家族の方に安心感と信頼を与えられるよう、パート、委託を含めた全職員に対し、接遇研修（全 10 回に分け実施 1,297 人参加）を開催した。昨年度、外部セミナー（講師養成）に職員が参加し、平成 30 年度からは院内職員が接遇研修の講師となり、当院の医療現場ならではの接遇能力や大切さなどについて、直接教えることができるようになった。			

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績
患者満足度調査結果 （概ね満足と回答した割合）	90.6%	88.7%	90.0%以上 の維持	89.9%

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
医療相談件数	6,740 件	5,090 件	5,172 件
患者意見件数	179 件	203 件	174 件

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

５　市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流

（1）市立病院としての市との連携

中期目標	市民が必要とする高度で良質な医療を安定的、継続的に提供するという公的使命を果たして行くため、市と連携して事業を進めること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
市と連携しながら、市目標に基づく計画の策定、計画の実行、市評価委員会による評価、評価に基づく改善などのＰＤＣＡサイクルによる経営管理を実践してまいります。	市と連携しながら、市目標に基づく計画の策定、計画の実行、市評価委員会による評価、評価に基づく改善などのＰＤＣＡサイクルによる経営管理を実践してまいります。	中期計画・年度計画の業務実績について、市への報告及び評価結果を受けるとともに、令和元年度から第２期の中期目標（計画）期間が始まることに伴い、市との綿密な連絡調整などを実施し、法人として計画策定に取り組んだ。 策定にあたり、評価委員会が開催され、各委員との質疑応答など、法人が市とともに評価委員会へ出席した。（評価委員会の開催実績 平成 30 年度７回）また、議会の議決が必要であることから、計画の内容や法人の経営状況などについて、市と法人で議会の各派に対し説明を行うなど、市との連携による病院運営を実践することができた。	３		

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
５　市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流
（2）医療・保健・福祉・介護関係機関との連携

中期目標	患者の疾病状況に応じた的確な医療の提供に向け、静岡病院の高度急性期病院及び地域医療支援病院としての役割を踏まえながら、本市医療機関の連携・ネットワークの一員として、清水病院、他の医療機関、医師会と連携し、病病連携及び病診連携を推進するとともに、地域包括ケアシステムの構築に向け保健・福祉・介護関係機関と連携すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　高度急性期病院及び地域医療支援病院としての静岡病院の役割を踏まえ、救急の対応や、「イーツーネット（疾病別病診連携システム）」の活用による診療所からの紹介患者の受け入れ、逆紹介などについて、他の医療機関や医師会と連携しながら取り組みます。 b　他病院と互いに協力・補完しあい、疾患ご	a　「イーツーネット」により疾患別に患者を登録し、きめ細やかな管理を行います。また、CT、MR 等の画像情報を交換できる「イージーイーツーネット」の活用により、更なる病診連携の推進を図ります。そして、各診療科において医師会の先生との病診連携勉強会を開催するなど、信頼関係の醸成に努めます。 b　他病院と互いに協力・補完しあい、疾患ご	病院と診療所の医師との間で医療情報を共有するイーツーネットや、さらに、紹介状・診療情報などの電子データを共有できるイージーイーツーネットを活用するとともに、医療機器の共同利用、病診がんカンファレンス（平成 30 年度 12 回開催）などを開催し、地域の医療機関等との連携を図った。成果指標である紹介率、逆紹介率は、いずれも目標値と前年度実績を上回る結果となった。 他の公的病院との連携を推進するため、静岡市公的病院協議会の会議（病院長事務部局長合同会議 年２回、病院長定例会年９回及び事務部局長連絡会年８回、看護部長連絡会 年４回、医事課長連絡会 年３回）に出席し、情報共有等に努めた。	４		

との連携の強化や、患者のその時々の病態にあった入院治療の効率的な提供など、病病連携の推進に努めるとともに、静岡市公的病院協議会における情報交換等により、他の市内公的病院との連携に取り組んでまいります。 c　地域包括ケアシステムの中で急性期医療を担い、退院後患者が住み慣れた地域で生活していくために、診療所、訪問看護ステーション、ケアマネージャー、在宅介護サービス事業者など多職種の関係者と連携を図ります。	との連携の強化や、患者のその時々の病態にあった入院治療の効率的な提供など、病病連携の推進に努めるとともに、静岡市公的病院協議会における情報交換等により、他の市内公的病院との連携に取り組んでまいります。 c　患者の在宅復帰等退院調整を強化し、在宅医療を受け持つ診療所、介護保険施設や療養型病院と情報を共有し連携を図るとともに市の保健・福祉・介護関係機関とも情報共有、連携を図ります。	在宅医療を実施するかかりつけ医と連携し、患者急変時に搬送先の病院へ医療情報をスムーズに伝達することが可能となる「在宅医療後方支援病院連携システム（イエローカード）」を維持し、引き続き安心、安全な医療の提供を実現する取り組みを行った。			

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績
紹介率	74.4%	76.5%	60.0%以上の維持	77.2%
逆紹介率	107.1%	103.5%	80.0%以上の維持	115.0%

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
５　市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流
（3）国内外医療関係機関との交流

中期目標	医療の高度化、複雑化、ボーダーレス化に的確に対応するため、国内外の医療関係機関と交流し、情報交換等を行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
学会等を通じて他の医療機関との連携を深め、また、国際協力機構（ＪＩＣＡ）等を通じて視察団を受け入れるなど、海外医療機関とも積極的に交流します。	自治体病院学会等に参加し、他の医療機関との連携を推進するなど、国内外医療機関と交流します。	平成 30 年 12 月、中国河南省の医療関係者代表団（医師、看護師、事務など 18 人）が当院を視察に来日し、当日は、当院の手術室、病棟、外来、検査室などの医療現場を視察し、当院の医療職が積極的に対応するなど職員同士の交流を図り、互いに研鑽し合うことができた。また、随時、県内外の病院の視察の受け入れも行った。 全国自治体病院協議会や全国公立病院連盟などの会合へ出席し、国の医療制度の動向の把握に努めた。 全国自治体病院学会 in 福島、関東圏・近畿圏における診療報酬改定研修会（年１回）、DPC 勉強会（年４回）や地独事務担当者情報交換会へ参加し、他の病院事務担当者との交流を深めた。	３		

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

１　働きやすい職場環境と職員のやりがいづくり

（1）働きやすい職場環境の整備

中期目標	職員のワーク・ライフ・バランスの推進、メンタルヘルスを含めた健康管理の実施、職場の安全衛生の確保などの職場環境の改善に努め、「働きやすい病院」にすること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態・勤務形態の導入や、職員ニーズを踏まえた職場環境づくりを行い、院内保育所の運営、健康管理、労働安全衛生を確保するなど「働きやすい病院」にしていきます。	働きやすく休みやすいワーク・ライフ・バランスの充実の実現に向け、多様な価値観や家庭環境に柔軟に対応できる雇用形態・勤務形態を整備し、利用促進に努めるとともに、長時間労働の改善に向けた変形労働時間制の導入や、勤務環境改善を推進する各行政機関との連携など、「働き方改革」の推進に向けた取り組みを継続します。 また、職員の意見、要望をより的確に把握するための職員意識調査、スト	医療従事者の負担を軽減するため、勤務環境の改善に向けて取り組んだ。 勤務環境改善委員会を開催し、仕事と育児を両立させるための制度である育児短時間勤務について、職員への更なる周知を図ることや、医師の負担軽減となる医療秘書の効率的な活用方法などについて協議した。さらに、医師の当直体制について、変形労働時間制を継続し、総労働時間の縮減に努めることなどを確認した。 また、全職員（正規職員、臨時職員）対象のストレスチェックを実施（平成30年９月）し、職員の心理的負担の把握に努めるとともに、暴力暴言等対策研修の実施（平成30年12月）や、ハラスメントの防止に向けた研修を実施（平	３		

	レスチェックを実施し、それに基づいた就労環境の向上策を検討・実施します。	成 30 年 12 月）するなど、職員が安心して働けるよう継続的取り組んだ。			
【関連指標】 項目 / 平成 28 年度実績 / 平成 29 年度実績 / 平成 30 年度実績 院内保育所の受入人数 / 25 人 / 33 人 / 25 人					

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
１　働きやすい職場環境と職員のやりがいづくり
（2）職員のやりがいと満足度の向上

中期目標	職員の成長やチャレンジを尊重するため、職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進するとともに、職員の職責、勤務成績等を適正に評価する人事給与制度の設定、職員相互で認め合うコミュニケーションの活性化等により、職員の意欲を引き出し、満足度を向上させること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進させるため、院内研修の充実や、職員の研修会等への参加支援を行います。また、職員の職責、勤務成績等を適正に評価する人事給与制度の構築、院内外の多職種が参加する研究発表会等による職員相互のコミュニケーションの活性化などを図るとともに、定期的に職員意識調査を行い、	a　職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進させるため、院内研修の充実や、職員の研修会等への参加支援を行います。また、職員の職責、勤務成績等を適正に評価する人事給与制度や表彰制度を構築するとともに、「医療学術集談会」や「看護研究発表」、「全国自治体病院協議会」での事例発表等による職員の意欲の向上や職員相互のコミュニケーションの活性化等を図ります。そして、	専門医資格取得委員会により、研修に必要な受講費用や旅費などを支給し、職員が自発的に自己研鑽に取り組む「自己啓発」への支援を行った。 職員の意欲の向上などを図るため、全国自治体病院学会 in 福島での演題発表（平成 30 年 10 月演題発表者 18 人）や、看護研究発表大会（平成 30 年 12 月 参加者 278 人）、医療学術集談会（平成 30 年 12 月 参加者約 80 人）を開催、各自のテーマを発表した。 多職種連携推進会議の開催（年６回）や、院外の外部施設で行う多職種合同の新職員研修を実施（平成 30 年４月 第３回テルモメディカルプラネックス研修新職員 104 人）するなど、職種の垣根	3		

職員の意欲を引き出し、満足度を向上させます。 b　職員の経営参画意識を高め、よりよい病院づくりに向けた取り組みを推進するため、病院の運営方針や課題についての職員間での情報共有や課題改善を検討するための会議を開催するとともに、課題改善の奨励に取り組みます。	職員意識調査を行い、その結果を踏まえた対策を検討・実施します。 b　職員の経営参画意識を高め、よりよい病院づくりに向けた取り組みを推進するため、病院の運営方針や課題についての職員間での情報共有や課題改善を検討するための会議を開催するとともに、課題改善の奨励に取り組みます。	を越えて、職員同士のコミュニケーションの向上を図った。 　事務職員を対象に「職員意識調査（平成 30 年８月）」を行い、仕事や職場に対する満足度調査を実施した。 　各部署の管理職等が集まる合同連絡会議（病院運営会議、病院幹部会議、病院部門連絡会）を毎月開催し、今後の方針等を明確にすることで病院全体が同じ方向を向き、効率的な病院運営に努めた。			

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
看護研究発表事例件数	15 件	16 件	16 件
全国自治体病院協議会事例発表件数	５件	16 件	18 件

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

２　業務運営体制の構築

（1）医療環境の変化に迅速・柔軟に対応できる体制の構築

中期目標	医療環境の変化に的確に対応して目標を着実に達成するため、法人が主体性をもって迅速に意思決定、行動ができるよう、理事長及び理事会を中心とした効率的で効果的な組織体制を構築すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
理事長のリーダーシップと、理事会を組織することにより、迅速で明快なプロセスによる意思決定を行います。 また、組織体制の構築に当たっては、必要十分でかつ無駄のない組織体制とするとともに、戦略的な病院経営を企画・立案する機能を強化するための新たな部署を設置するなど、効率的で効果的な組織体制とします。	医療環境の変化や患者の動向を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な対応がいつでもとれるよう組織体制を弾力的に改組します。 超高齢化社会に備えるための地域医療構想や、医療制度改革への対応方針及び方向性の検討、さらに、静岡市や他の行政機関との連携推進など、中長期的な視点による病院経営戦略の一翼を担う部署として、新たに経営戦略本部「経営戦略室」を設置します。	病院経営戦略の一翼を担う部署として、平成 30 年４月、新たに経営戦略本部「経営戦略室」を設置し、病院運営に関する様々な事業の方針や計画などの立案・検討を行った。 経営戦略室が中心となり、医師、看護師などの医療職と事務職が、各事案に対し活発な意見交換を行った。ＣＴ更新準備会議（４回開催）、血管撮影装置導入会議（４回開催）、高度集中治療室検討会（３回開催）、人事管理システム導入会議（２回開催）、電子カルテ等更新会議（２回開催）、正面エントランス改修会議（２回開催）、看護師採用検討会議（２回開催）など、全２２回にわたり経営戦略的な会議を実施した。 医師が都市部などに偏り、地方で不足す	３		

そして、組織体制は、医療環境の変化に応じて、弾力的に改組します。	また、従来の「教育研修管理室」から「教育研修管理センター」へとセンター化を図り、平成３０年４月から始まる新専門医制度への対応や、研修指導体制の更なる強化などに取り組みます。	る偏在が進む中、当院の状況は、特に専攻医の採用が重要課題となっている。そのため、平成３０年４月、従来の「教育研修管理室」をセンター化し、「教育研修管理センター」として新専門医制度などへの対応について強化を図り、専攻医の採用に取り組んだ。（専攻医の採用実績 平成 30 年４月採用４人、平成 31 年４月採用７人）			

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
２　業務運営体制の構築
（2）市民との連携・協働による病院運営の実施

中期目標	市民の安心・安全を支える地域医療を存続させるためには、医療機関と市民との連携・協働が必要であり、静岡病院の運営においても市民との連携・協働を推進すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
地元自治会等と共同開催による市民公開講座の実施や、院内の患者誘導、移送等に係る市民ボランティアとの協働を進めるとともに、院内コンサートの実施等について、市民の協力を得た病院運営を行います。	地元自治会等と共同して市民公開講座等を開催します。 また、静岡病院での患者誘導、移送等に係る市民ボランティアを支援するため、ボランティア支援委員会を開催し、市民ボランティアとの協働を進めます。 そして、院内において市内の学生によるミニコンサート・フラワーアレンジメントなどを実施し、患者さんに心地よい環境を提供します。	医療を身近に感じることができるイベント「第 15 回病院フェア」の開催（平成 31 年３月）にあたり、職員のみならず患者友の会などからも出展の協力を得ることができ、市民との協働によるフェアの運営を実践した。 中山間地域で開催した「静岡市民『からだ』の学校（平成 30 年８月～９月）では、各自治会と連携し会場の準備、参加者への周知などを行った。 デザイン専門学校の協力によるフラワーアレンジメントの実施や、院内クリスマスコンサートでの近隣の学校の吹奏楽部の演奏など、学生ボランティアと協働して事業を実施した。 院内誘導、移送（車椅子）、外来案内など、院内の様々な活動でボランティア	３		

		に従事していただいた。そのうち優れた活動実績のボランティアには表彰を行った。（平成 30 年度表彰者２人）			
【関連指標】 項目 / 平成 28 年度実績 / 平成 29 年度実績 / 平成 30 年度実績 地元自治会等との共催事業 / ３回 / ３回 / ３回 ボランティア活動延べ人数 / 517 人 / 515 人 / 422 人 院内コンサート / １回 / １回 / １回					

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
２　業務運営体制の構築
（3）外部評価等の活用

中期目標	病院の運営管理や提供している医療等の情報について外部に公表するとともに、第三者の客観的な立場からの評価を受け、病院の運営体制の充実や医療の質の向上を図ること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
病院の運営管理や提供している医療、臨床研修プログラムについては、「病院機能評価」や「臨床研修評価」を受審し、適正な病院経営・会計執行等については、監事による監査等を実施するなど、客観的な立場からの評価等を受けます。 また、医療の質の向上に係る院外での研修受講の推進や品質管理等の民間のスキルやノウハウを活	「病院機能評価」を受審し、継続して認定病院となり、地域に根ざし、信頼と納得の得られる医療サービスを提供します。 さらに、「臨床研修評価」を受審し、継続して認定病院となり、第三者評価による研修プログラムの保証、臨床研修病院の質の改善・向上を促進し、よりよい医療を提供します。 また、業務の実施状況、資産の取得管理、財務諸表等について「監事監査」を実施し、適正な病院経営、会計経理の執行に努めま	平成３０年１０月、当院は医療機関として、第三者機関（日本医療機能評価機構）の審査（認定更新）を受け、引き続き、市民から信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院として認定（平成 30 年 11 月）された。 受審に向けては審査項目の４領域（①患者中心の医療の推進、②良質な医療の実践１、③良質な医療の実践２、④理念達成に向けた組織運営）別にグループ会議を開催し、検討及び対策を講じた。また、院内職員によるプロジェクトチームが、院内各所の巡視を複数回実施し、必要な改善を図った。さらに、平成３０年９月には、同様の第三者評価を受審した他病院を当院の職員（看護師２人、事務	３		

かす方策の検討などにより、病院体制の充実や適切な病院経営に努めます。	す。 　そして、医療の質の向上に係る院外での研修受講の推進や品質管理等の民間のスキルやノウハウを活かす方策の検討などにより、病院体制の充実等に努めます。	３人）が視察し良い事例などについて情報共有を図った。受審を契機に、院内（外来ホール、病棟、エレベーター内など）の案内図や、当院の理念、患者さんの権利など掲示物の見直し、院内の各規程やマニュアルの精査などを実施した。 　財務諸表などについて、監査計画に基づく監事等の定期監査・決算監査を受けるとともに、毎月、顧問会計士と定例会を実施するなど、会計処理などについて適正に業務を執行した。また、外部アドバイザーによる経営改善指導を通じて、薬品や診療材料の価格の適正化を図った。			

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
２　業務運営体制の構築
（4）事務部門の強化

中期目標	業務執行能力の高い組織を確立するとともに、医療経営や医療事務に係る専門的知識や使命感を持った人材の確保・育成を計画的に行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
業務執行能力の高い組織を確立するとともに、医療経営や医療事務に係る専門的知識や使命感を持った人材の採用や育成を計画的に実施します。	事務職員のプロパー化を推し進め、能率的な医療経営の推進を図ります。	法人移行後、経験者枠で医療事務経験者を予定通り採用することができたが、法人採用職員全体を見れば、年齢、経験、能力にバラつきがあり、管理職としての育成や配置には今後長い時間を要することが見込まれる。他方、市からの派遣職員は、そうした病院の職員体制を補う者であるとともに、医療関連の地域課題が増加する中、病院経験を市政に反映しうる貴重な人材でもある。これらの事情及び先行する独法の動向を踏まえ、市と協議を行い、派遣職員の削減を見直した結果、平成 30 年度末における切り換え率を 62.5%とした。	３		

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績
派遣職員から法人職員への 切り替え率（事務職）	22.5%	50.0%	75.0%	62.5%

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

２　業務運営体制の構築

（5）法令の遵守等

中期目標	市立病院としての公的使命を適切に果たすため、医療法等の関係法令を遵守し、高い倫理観のもと、適正な病院運営を行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療法や、健康保険法に基づく療養担当規則等の関係法令の遵守及び倫理意識の向上に関する研修等を職員に実施して、適正な病院運営を図ります。	医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程等を遵守し、職員に対し定期的な意識啓発を実施します。	保健所の立ち入り検査などを通じて保険医療機関として遵守すべき事項等への対応について検討及び改善を図った。 医療法の一部改正に伴い、医療機関のウェブサイト等への規制が強化されたため、当院のホームページに記載された表現について、院内の委員会を中心に、慎重に精査し、必要な修正を行なった。	３		

第３　財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

１　健全経営の維持

（1）安定的な経営の維持

中期目標	静岡病院が地域医療の核として、市民が必要とする高度で良質な医療サービスを継続して提供していくために、中期目標期間を通じて、経常収支を均衡させ、安定的な経営を維持すること。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療環境の変化に的確に対応しながら、収入の確保及び費用の節減を図り、市からの運営費負担金等の繰入後の経常収支を均衡させ、安定的な経営を維持します。	医療環境の変化に的確に対応しながら、収入の確保及び支出の無駄を省き、市からの運営費負担金等の繰入後の経常収支を均衡させ、安定的な経営を維持します。	安定的な病院経営を維持するため、収入確保策への取組みと費用削減に努めた。収入については新たな施設基準取得、患者数の増加などに努めた。費用については、医薬品及び診療材料の購入費削減のため価格交渉の強化に努めた。 入院・外来患者数及び入院・外来単価のいずれも前年度実績を上回り、医業収益は前年度に比べ 591 百万円増の 18,396 百万円となった。医業費用では給与の改定や看護体制維持に必要な看護師の増加、診療材料費の増加などにより前年度に比べ 254 百万円増の 18,859 百万円となった。 この結果、年度当初は運営費負担金が前年度より約 113 百万円減少することから収支の悪化が懸念されたが、今年度	4		

		収支は 66,304 千円の黒字を達成することができた。			

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績
総収支比率	102.2%	99.0%	100.0%	100.3%
経常収支比率	101.4%	99.0%	100.0%	100.3%
医業収支比率	97.4%	95.7%	96.0%以上	97.5%

第３　財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

１　健全経営の維持

（2）収入の確保、費用の節減

中期目標	経常収支の均衡のため、収入の確保及び費用の節減について、全ての職員がこのことを意識して日頃から取り組むとともに、診療報酬改定への的確な対応や地方独立行政法人のメリットを生かした多様な契約手法の導入による調達コストの削減など、様々な機会を通じて取り組むこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a　収入の確保のため、以下の項目を実施します。 ア　収入の確保に向けた全職員対象の研修会等を実施 イ　診療報酬改定への的確な対応 ウ　人口減少社会における患者の安定的な確保 エ　査定状況等の傾向分析に基づく診療報酬の請求漏れや査定減防止策の関係者への周知	a 収入の安定的確保のため、以下の項目を実施します。 ア　収入の確保に向けた全職員対象の研修会等を実施 イ　診療報酬改定への的確な対応 ウ　人口減少社会における患者の安定的な確保 エ　査定状況等の傾向分析に基づく診療報酬の請求漏れや査定減防止策の関係者への周知 オ　未収金の圧縮（電話催告、「医療相談窓口」等相談	〔収入の確保〕 ア　平成 31 年１月より、電子カルテのトップ画面に稼動額と半期・第３四半期の経営状況を掲載し、職員との情報共有を進めた。 イ　部門連絡会・経営改善発表会・診療部会議にて平成 30 年度上半期の稼動額と収益の説明を行い、経営向上のための協力をお願いし、入院単価は 77,066 円と前年度に比べ 961 円増、外来単価は 18,196 円と前年度に比べ 67 円増となった。 〈新たに取得した施設基準など〉 ・悪性腫瘍病理組織標本加算（H30.4） ・救急搬送看護体制加算（夜間休日救急搬送医学管理料）（H30.4）	4		

オ　未収金の圧縮（電話催告、外来面談等） b　費用の節減のため、以下の項目を実施します。 ア　後発医薬品の積極的な採用 イ　診療材料や医薬品について、市場調査に基づく価格交渉の実施や在庫管理の徹底 ウ　契約手法の多様化（長期契約、包括的一括契約等） エ　費用節減について会議等による全職員への周知・浸透	窓口の周知や職員による支払相談の充実強化） b　費用の節減のため、以下の項目を実施します。 ア　後発医薬品の積極的な採用 イ　診療材料や医薬品について、市場調査に基づく価格交渉の実施や在庫管理の徹底 ウ　多様化する契約手法を最大限活用 エ　費用節減について、会議等による職員への周知・浸透	・胸腔鏡下弁形成術（1 弁のもの）（H30.4） ・入院時支援加算（入退院支援加算）（H30.5） ・糖尿病合併症管理料（H30.6） ・緩和ケア診療加算（H30.7） ・個別栄養食事管理加算（緩和ケア診療加算）（H30.7） ・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術）（H30.8） ・人工腎臓導入期加算２（H30.10） ・腎代替療法実績加算（慢性維持透析患者外来医学管理料）（H30.10） ウ　医療機関との連携、医師会との連携推進による紹介率・逆紹介率の向上、救急患者の受け入れ強化など、患者確保に向けた取り組みを行い、入院患者数は 167,789 人と前年度に比べ 4,861 人増となり、病床利用率は 90.8%と前年度実績を上回る結果となった。外来患者数も 279,826 人となり前年度に比べ 2,820 人増となった。 エ　査定状況などの分析・報告を行うため、保険診療委員会を毎月開催した。高額査定された内容を検証し、具体的な請求方法の指示や、再審査請求を推進するなど、査定減対策などの強化に努めた。			

		オ　未収金回収への取組みとして、職員による督促の他、債権回収専門業者への徴収業務委託を実施し、平成 30 年度の収納率（現年度分）は 98.6%となった。 〔費用の節減〕 ア　後発医薬品の切り替えについては、引き続き薬剤委員会において切り替えを進め、後発医薬品指数の平成 30 年度実績は 87.0%となり、目標値を上回ることができた。 イ　薬品費の抑制を図るため、市場調査の価格に基づく薬価交渉を実施した。契約した民間業者をアドバイザーとして同席させ、交渉を行った（平成 30 年度交渉回数 10 回）。アドバイザー同席のもと薬価交渉を進め、平成 30 年度の値引率は 14.75%となった。また、診療材料費についても、薬品同様価格交渉（平成 30 年度交渉回数 5 回）の際にアドバイザーを同席させ、診療材料費の抑制に努めた。 ウ　委託契約の際には、業者の選定、契約内容、積算方法などについて、幹部メンバーなどによる審議を行った（業者選定委員会 31 回開催）。			

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績
病床利用率	90.9%	89.3%	95.0%以上	90.8%
収納率（現年度分）	98.1%	98.6%	98.0%以上	98.6%

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
入院患者数	165,836 人	162,928 人	167,789 人
外来患者数	282,213 人	277,006 人	279,826 人
手術件数	5,422 件	5,055 件	5,153 件
平均在院日数	12.1 日	12.2 日	12.1 日

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 目標	平成 30 年度 実績
後発医薬品指数	83.9%	85.6%	70.0%	87.0%

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度実績
給与費比率	47.5%	48.1%	47.5%
材料費比率	31.0%	31.3%	31.0%
経費比率	16.7%	17.0%	16.7%

第３　財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

１　健全経営の維持

（3）計画的な投資の実施

中期目標	医療機器や設備の整備・更新などの投資を行う際には、その投資効果を把握し、投資後の収支の見通しを立て、アセットマネジメント（資産管理）の観点も踏まえて計画的に行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療機器の稼働状況や耐用年数、新たな医療機器の開発状況、他の医療機関における機器の整備状況などを踏まえ、投資効果や投資後の収支見通しやアセットマネジメント（資産管理）等を勘案し、主要医療機器の整備計画や、施設の整備・修繕計画を策定して投資します。	主要医療機器の整備計画や施設の整備・修繕計画を踏まえて投資します。	医療機器の購入については、各診療部門からの要望に対し、診療での必要性、経済性などを精査し、平成 30 年度は 57 台購入した。 施設整備については、産婦人科病棟のリニューアルについて取り組み、患者からの要望が多い個室について、トイレと大型洗面台の設置、部屋の面積を拡張した。また、窓を二重サッシへ変更するなどの整備を行った。	３		

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
減価償却費比率	7.2%	7.7%	7.0%

第４　その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

１　地球環境に配慮した病院運営

中期目標	病院は、24 時間稼働し、また、電力を消費する医療機器やディスポーザブル（使い捨て）材料を使用する等の特徴があるため、省資源・省エネルギー、廃棄物の減量、温室効果ガスの排出抑制など、地球温暖化対策の推進と資源の有効活用に取り組み、地球環境に配慮した病院運営を行うこと。

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		静岡市評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
環境負荷の少ない機器の購入、廃棄物の分別徹底、リサイクル推進による廃棄物の減量、ディスポーザブル材料の見直し、地下水利用による水道使用量の削減、高効率機器の導入、機器の効率的な運転管理の実施等により、地球環境に配慮した病院運営を行います。	環境負荷の少ない機器の購入、廃棄物の分別徹底、リサイクル推進による廃棄物の減量、ディスポーザブル材料の見直し、地下水利用による水道使用量の削減、高効率機器の導入、機器の効率的な運転管理の実施等により、地球環境に配慮した病院運営を行います。	環境負荷の少ないLED 照明への切り替えを順次実施した。 【平成 30 年度実績 LED 照明器具切り替え実施箇所】（西館４階の病室・スタッフステーション照明、共有通路の照明） また、温水ポンプの制御機能を改修し、機器の効率的な運転を実施するなど、電力消費量や CO2 排出量の削減に努めた。 ゴミの分別については、薬剤部と事業管理部が主体となって紙の分別収集に取り組み、薬剤や文具などの包装紙箱を「雑紙」として分別し、ゴミの減量と処理費用の縮減に努めた。	３		

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
電気使用量	10,701,456KWH	10,591,290KWH	10,817,159KWH
ガス使用量	1,315,030 ㎥	1,342,235 ㎥	1,324,187 ㎥
水道使用量	97,333 ㎥	99,374 ㎥	103,844 ㎥

第５　予算、収支計画及び資金計画

※　財務諸表及び決算報告書を参照

第６　その他市の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実績

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	予定額	財源
施設、医療機器等整備	2,947	静岡市長期借入金等

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	予定額	財源
施設、医療機器等整備	872	静岡市長期借入金等

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	実績額	財源
施設、医療機器等整備	626	静岡市長期借入金等